

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 44
Spring
2015

〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆教授就任の挨拶(井上 真)<1>
- ◆フォトアルバム<4>
- ◆佼成病院の紹介(五月女 典久)<2-3>
- ◆イベント情報<4>
- ◆編集部からのコメント<4>

<執筆者：括弧に明記 production：岡田アナベルあやめ、渡邊交世、堀江大介、仲嶋みずき>

教授就任の挨拶(井上 真)



井上 真

この度、昨年10月1日付けで眼科学教授を拝命させていただきました。これまでご指導を賜りました諸先生方々にはこの場をお借りしまして深く感謝を申し上げます。自分の専門は網膜硝子体疾患です。特に小切開硝子体手術の発展を支援してきました。特

に25ゲージ硝子体手術を積極的に行ってきましたが近年ではさらなる小切開の27ゲージ手術も導入しています。杏林大学に赴任してまず驚いたのは網膜剥離の多くの症例数です。網膜剥離の手術は通常緊急で行われるため、慢性のベッド不足でした。小切開硝子体手術の利点とベッド不足を解消するため、硝子体手術の日帰り手術を導入して今では年間200例近くの日帰り手術を行っています。

杏林アイセンターの網膜硝子体疾患の診療は故樋田哲夫教授、平形明人教授の卓越したご指導とご尽力の結果、全国でも有数の手術件数と診療レベルを誇っています。さらに教育面でも他大学からの網膜硝子体fellowを積極的に受け入れ、指導が行われてきました。私自身もそのfellowの卒業者の一人であり、多くの卒業生が全国で日本

の眼科診療を牽引して活躍されています。また、アイセンターの特徴ある診療システムを一目見ようと国内海外からの見学者も多く、幅広いネットワークが広がっています。今後は今まで培ってきた国内外のネットワークを活かしたグローバルな視点の眼科診療や臨床研究が益々必要となってくると考えられます。他施設との共同プロジェクトも多くなり、海外の施設との共同プロジェクトも始動しています。

杏林アイセンターは細分化された眼科診療を包括的に行うために設立され、本年度で16年目を向かえます。各専門分野のエキスパートが診療を行うバランスの取れた眼科診療ができることを自負しています。今後もエビデンスに基づいた診療を教職員共々率先して行い、また臨床研究も今まで以上に発展させていく所存であります。皆様におかれましては、変わらぬご指導ご支援をお願いいたします。

略 歴

平成 元年 慶應義塾大学医学部卒業
平成 元年 慶應義塾大学医学部眼科研修医
平成 2 年 国家公務員共済組合連合会立川病院
平成 4 年 日野市立病院
平成 6 年 杏林大学医学部眼科 網膜硝子体Fellow
平成 9 年 米国デューク大学アイセンターResearch fellow
平成12年 慶應義塾大学医学部眼科助手
平成15年 慶應義塾大学医学部眼科学専任講師
平成19年 杏林大学医学部眼科学准教授
平成26年 杏林大学医学部眼科学教授

佼成病院の紹介(五月女 典久)

【旧病院】

平成25年4月から杏林アイセンターの関連施設となり、また平成26年9月20日に新病院に移転した佼成病院を紹介させていただきます。

佼成病院は宗教法人である立正佼成会が母体で、正式には立正佼成会附属佼成病院と称します。昭和27年8月、宗教法人立正佼成会の社会貢献事業の一環として開院されました。当時は内科、外科、小児科、産婦人科、歯科で診療が行われ、院長以下職員31名、病床数23床でした。その後昭和34年9月、中野区弥生町に地上7階地下1階の新病院(今となっては旧病院)ができ、標榜診療科に眼科、耳鼻科、泌尿器科、皮膚科、放射線科が加わり病床数345床の総合病院となりました。昭和44年には腎透析センター、昭和51年には診療センター、平成9年に健診センター等を創設していきました。そして病院の老朽化により平成26年9月20日に杉並区和田町に病床数340床、地上10階地下1階規模で移転開院となりました。(写真1)

【写真1】



【引っ越しに際して】

移転に際しましては、近隣の先生方には大変ご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫びさせていただきたいと思えます。また、関係各位の協力なくしては9月20日の開院および眼科診療の開始ができなかったと思えます。

新病院開院については3年ほど前から話があり、徐々に計画が進められていきました。私は平成25年4月からこの計画に参加させていただきました。

特にカルテの電子化はひとつの大きな問題でした。最近では電子カルテを導入しているクリニック、病院が増えて

きて多くの先生方が経験されていらっしゃるかもしれませんが、佼成新病院では旧紙カルテを保管するスペースがない、という問題から移転前にすべてのカルテのサマリーを作成するという作業があり、多くの時間を要することとなりました。

それでも移転後に来院される患者さんの中にはサマリーがない方もあり、まったくの初診の状態で診察しなければならないこともしばしばあります。開院して約5ヶ月たった現在、徐々に電子カルテに慣れてきてスムーズに外来診療を行えるようになりました。

●外来表

	月 曜	火 曜	水 曜	木 曜	金 曜	土 曜
AM	國田	五月女	山田	五月女	五月女/國田	村野
	吉川	北	重安	國田	北	國田/並木
		吉田		吉田	吉田	吉田
	手術(五月女)		手術(國田)			
PM	予約のみ	予約のみ	予約のみ	予約のみ	予約のみ	
				手術(五月女)	手術(國田)	

【写真2】



【新病院】

(写真2)の通り他科に比べて広い外来スペースを確保していただきましたが、それに見合うスタッフ、検査機器、医師の確保が問題となりました。また、広い分だけ患者動線が定まらず、今でも検査員は検査室と診察室を走り回っています。

検査機器としては新たにニデックOCT(RS3000advance)、広角眼底カメラOptos200Tx、光眼軸測定装置OA2000を設置しました。特に広角眼底カメラOptos200Txは非散瞳下で画角220°まで撮像可能で、患者さんへのムンテラや当院で多い人間ドックで非常に活躍しています。

また、ニデックOCT(RS3000advance)は簡便に黄斑部網膜厚を部位別に測定することができ、緑内障の分野ではGCCや網膜外層厚を測定するのに役立っています。

平成27年1月時点では常勤医師3名、ORT3名体制で診療に当たっています。また、角膜・斜視の山田教授を始め、各分野を専門とする医師に非常勤で応援に来ていただいています。

そして平成27年1月からは久留米大からAMDを専門とする吉田ゆみ子医師が常勤メンバーに加わり、活動性のある黄斑変性にも対応できる体制となりました。(外来表)

手術は、平成25年以前は隔週で行われていた体制を週2回に増やし、また新病院移転後は杏林アイセンターで多くの症例経験を積んだ網膜硝子体サージャンである國田大輔医師が常勤となり、11月から硝子体手術を始め徐々に症例が増えています。平成25年4月以降から始めている緑内障手術は月に1～2症例行い、これまで通り難症例白内障も手掛けています。(手術実績)

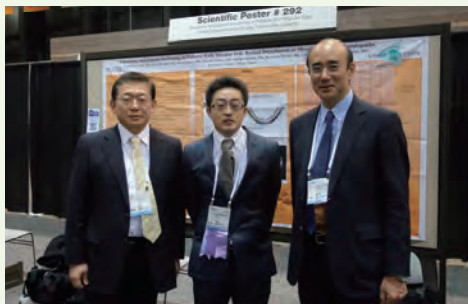
中野区から杉並区に移転し、既存の患者さんはもちろんのこと病院周辺の方々、近隣の先生方にもはやく周知していただき、様々な疾患に対応させていただき地域医療に貢献できたらと考えています。

●手術実績

白内障				緑内障				網膜硝子体		眼瞼・結膜
PEA+IOL	ECCE+IOL	ICCE	IOL縫着	Lot	GSL	EXPRESS	Lec	Vit	注射	
342	1	1	1	15	1	1	1	5	30	11

(手術実績：平成26年1月～12月)

フォトアルバム



AAOにて安藤先生発表



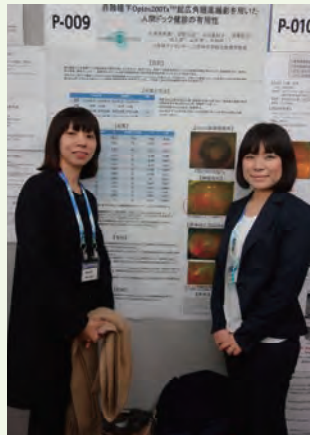
忘年会にて柳沼先生 (Distinguished Contribution 賞)、松本先生、久須見先生 (Best Senior Resident 賞) 受賞



医局旅行 ↑ ↓



アメリカ小児眼科斜視学会にて富田先生発表



第53回日本網膜硝子体学会にて中山先生・久須見先生発表



臨床眼科学会・神戸にて ↑ ↓



イベント情報

<第6回東京多摩眼科連携セミナー>

2015年4月25日(土) 14:30 ~ 17:00 杏林大学 大学院講堂

会費 1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「眼科に関連する脳神経外科疾患診療のご紹介」 塩川 芳昭 先生 (杏林大学医学部附属病院 脳神経外科教授)

<第7回 Eye Center Summit>

2015年6月6日(土) 17:30 ~ 20:00 丸ビルホール (開催場所にご注意ください)

会費 2,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「前眼部疾患について(仮題)」 黒坂 大次郎 先生 (岩手医科大学医学部 眼科学講座教授)

「後眼部疾患について(仮題)」 湯澤 美都子 先生 (日本大学医学部視覚科学系 眼科学分野教授)

<第58回東京多摩地区眼科集談会>

2015年10月17日(土) 14:30 ~ 16:30 杏林大学 大学院講堂

会費: 1,000円 (日本眼科学会認定専門医2単位)

「人工網膜関連(仮題)」 不二門 尚 先生 (大阪大学大学院医学系研究科 感覚機能形成学教授)

編集部からのコメント

故樋田名誉教授の直弟子の井上真先生が教授に昇任されました。オペに論文にと精力的な井上先生ですが、今後はさらにアイセンター全体の盛り上げ役として、ぐいぐいと若手を引っ張ってくださることを期待しています。また、杏林の第2病院の位置づけで装いを新たにした佼成病院には、アイセンターの優秀な人材を送り込んで病診連携の促進に努めますので、宜しくお願い致します。(AH)